

高等学校第1学年 家庭基礎学習指導案

日 時 平成29年10月31日（火）第2校時
指導者 教育センター所員 中島 教子

題材名 家庭基礎「主体的な消費行動をめざして」（大修館 未来をつくる新高校家庭基礎）
学習指導要領 内容（2） 生活の自立及び消費と環境 ア、オ

1 題材について

グローバル化、情報化が急速に進展する中、消費者をめぐる状況は多様化・複雑化している。2004年に「消費者基本法」が制定され、消費者は「保護される対象」から、「自立した主体」として位置付けられた。2012年には、自立した消費者を育成する消費者教育の推進を目指して「消費者教育の推進に関わる法律（消費者教育推進法）」も制定された。高等学校家庭科では、これまでも悪質商法による被害や多重債務など消費者問題を中心に消費者教育を行ってきた。しかし、食の安全・安心に関する問題、環境問題など、消費生活に関わる社会問題はますます深刻化しており、消費者市民育成の視点からの消費者教育が求められている。高校生になると、自らの意思によって物を選んで消費する機会が多くなるが、適切な意思決定に基づいた消費を行っているとは言い難い。

本題材は、食生活と消費生活、環境の内容を融合させて設定しており、身近な商品の表示から読み取れる情報を整理するとともに、生産から消費までの過程を知ること、物の背景に目を向け、物を選ぶ際の視点について考えることができる内容である。本題材を通して、自らの消費が社会に与える影響を自覚して、持続可能な社会の実現に向けて、適切な意思決定に基づいた消費行動をしようとする消費者市民としての資質を養うことができると考える。

指導にあたっては、身近なチョコレートの購入場面を設定することで、消費生活の現状と課題を自分のこととして捉えさせる。また、対話的な学びを取り入れ、選ぶ視点や価値観の相違に気付かせることから、持続可能な社会の実現に向けて、自らの消費生活を見直し、適切な意思決定に基づいた消費行動について考えを深めさせたい。

2 題材の目標

消費と社会や環境との関係について理解し、持続可能な社会の構築の視点から商品選択を行う消費者市民としての資質を養い、消費者として適切な意思決定に基づいて主体的に行動できるようにする。

3 題材の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自らの消費生活を振り返り、持続可能な社会を目指して、自分たちができることに興味を持って、取り組もうとしている。	持続可能な消費行動や食生活の在り方について課題を見だし、その解決に向けて思考を深め、消費者市民として適切な意思決定ができる。	社会や環境に配慮した消費行動に必要な情報を収集・整理し、他者に伝えることができる。	自らの消費行動が社会や環境に与える影響を理解し、持続可能な社会を目指すことの重要性を認識している。

4 指導と評価の計画 (全3時間)

題材の指導計画

- ① 消費生活と社会・環境とのつながり 1時間
- ② 商品の選択と購入 1時間
- ③ 持続可能な社会を目指した適切な意思決定 1時間(本時)

	【ねらい】・◆学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
① 1時間	消費生活と社会・環境のつながり 【ねらい】 自らの消費行動が社会や環境にどのような影響を与えているかを理解する。					
	◆食料を輸入に頼りながら、その食料の多くを廃棄していることなどを知り、世界レベルの問題として捉える。 ◆食料の輸入が多いことが環境へ与える影響について考える。			●		◇身近な食生活の現状から、大量生産・大量消費・大量廃棄などの問題について考え、輸入による二酸化炭素排出などの問題があることを知り、自らの消費行動が世界レベルの問題につながっていることを理解する。(ワークシート)
② 1時間	商品の選択と購入 【ねらい】 身近な商品の表示から読み取れる情報を整理するとともに、選ぶ視点や価値観の相違に気付き、多様な視点で商品を選択することができる。					
	◆商品を選び購入する際に必要な情報を収集し、整理する。 ◆商品を選び購入する際に情報を的確に判断し、多様な視点を基に意思決定をする。			●		◇商品を選び購入する際に必要な情報を収集し、整理することができる。(ワークシート) ◇商品から得られる情報を的確に判断し、多様な視点の基に選択している。(ワークシート、観察)
③ 1時間 本時	持続可能な社会を目指した適切な意思決定 【ねらい】 持続可能な社会の実現に向けて、身近な物の背景にある問題から消費生活の在り方を考え、消費者市民として適切な意思決定をすることができる。					
	◆大量生産・大量消費の現状や世界で起きている様々な問題が、身近な消費行動と結びついていることに気付き、社会や環境に配慮した消費行動について考える。 ◆自分の消費生活を振り返り、持続可能な社会を目指して、自分ができることを考える。		●			◇持続可能な消費行動や食生活の在り方について課題を見だし、その解決に向けて思考を深め、消費者市民として適切な意思決定ができる。(ワークシート) ◇自分の消費生活を振り返り、持続可能な社会を目指し、自分たちができることに関心を持ち取り組もうとしている。(ワークシート)

5 本時の目標

持続可能な社会の実現に向けて、身近な物の背景にある問題から消費生活の在り方を考え、消費者市民として適切な意思決定をすることができる。

6 指導の視点

食生活と消費生活の内容を融合させた題材を設定し、身近なチョコレートを教材にすることで、持続可能な社会づくりに関わる課題について主体的に捉えさせることができると思う。グループ活動においては、対話的な学びから新たな視点に気付かせ思考を深めさせたい。また、教具を工夫することで、学び合いや思考の過程を可視化できるようにする。

7 本時の展開

過程	学習活動	形態	指導上の留意点	評価規準
導入 5分	1 前時の学習内容を確認する。	斉	○商品を購入する際に基準となる視点を再確認する。	
	2 本時の学習内容を知る。		○本時の内容を説明する。	
<p>チョコレートが私たちの手元に届くまでの過程を知り、その背後にある様々な問題に気づき、持続可能な社会を目指して、自分たちにできることを考えよう。</p>				
展開 35分	3 チョコレートが私たちの手元に届くまで（原料生産から消費）の過程を知る。	斉	○チョコレートの原材料や産地について、クイズ形式で提示しながら説明する。 ○チョコレートの原料生産に目を向けさせる。	<p>持続可能な消費行動や食生活の在り方について課題を見だし、その解決に向けて思考を深め、消費者市民として適切な意思決定ができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
	4 チョコレート1枚の価格を、原料生産から商品として販売されるまでの各過程に対してどのように配分するか理由まで考える。 ・個人で考える。 ・グループの考えをまとめる。	個 ↓ G	○チョコレート1枚の価格配分とその理由を考えると、大量生産・大量消費の現状や原料生産、輸入等の過程の背景にある問題等に気付かせる。	
	5 各グループの価格配分をまとめ、クラス全体で共有するとともに、実際の価格配分と比較する。	斉	○実際の価格配分と比較することで、身近な食生活と世界の問題とは、深いつながりがあることを確認する。	

まとめ 10分	<p>6 自分の消費生活を振り返り、前時に考えたピラミッドランキングを見直すとともに、持続可能な社会を目指して、自分ができることを考える。</p> <p>7 本時の学習を振り返る。</p>	<p>個</p> <p>○物を選び購入する際には、物の背景を含め、様々な条件を考慮する必要があることを伝える。</p> <p>斉</p> <p>○持続可能な社会の実現には、一人一人の適切な意思決定と消費行動が深く関わっており、世界を変える力になることを伝え、実践への意欲を持たせる。</p>	<p>自分の消費生活を振り返り、持続可能な社会を目指して、自分たちができることに興味を持って、取り組もうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p>
------------	--	---	--